



神戸市立博物館「和ガラスの神髄展」に行ってきました。

「和ガラスの神髄—びいどろ史料名品選」11月27日まで神戸市立博物館で開催



～中学校給食に注目集まる～

決算特別委員会では、教育委員会の質問を担当しました。今年7月に行われた、「**中学生の食生活と昼食に関するアンケート**」の結果速報が出され、各党派とも、中学校給食についての質問が集中しました。アンケート結果は、保護者の7割が給食を希望している一方で、5割強の生徒は、弁当を望んでいるというものでした。今後、財源や食育の観点も含め、有識者・保護者を含む検討会が立ち上げられることになりました。

～不登校児童の支援について～

新聞によると、県内の不登校の減少は、フリースクールとの連携が功を奏したのではないかと書かれています。フリースクールが認められてきたことは実感しますが、実際にはフリースクールへの助成金等はほとんどありません。ひとつの補完組織ととらえ、助成を行っていったらどうでしょうか。また、川崎市など、公設民営のフリースクールも存在しますが？

また、不登校となる原因は様々で複雑ですが、発達障がい原因となっている場合も多いと伺います。明石市の清水が丘学園は、発達障がいなどが原因で、引きこもりや、学校になじめないなどの子どもたちのための兵庫県立の児童心理療育施設です。全国的にも数が少なく、実際のニーズに追いついていない現状です。保健福祉局と連携してこうした施設の設立が必要ではないでしょうか。

市当局：フリースクールは最近、学校教育に準ずる体制のところも出てきているが、例えば養護教諭がないなど、安全上の問題のあり、一律に支援するのは難しい。神戸市ではあくまでも、学校復帰を目指す。フリースクールについては、出席認定を行うことで学校復帰を目指すようにしていきたい。本市の発達障がい児への対応については、子ども家庭センター、総合療育センターのほか、児童養護施設でも国の基準を超えて障がい児対応職員を配置している施設には経費補助を行って対応している。清水が丘学園は、情緒障害を治すことを目的とした施設。設備や専門職員の配置など、すぐに設置することは大変難しい。受け入れ枠の拡大を県に働きかけたい。

清水が丘学園について～(清水が丘学園ホームページより転載)

清水が丘学園は子どもの心理治療を行う施設です。
 全国的にも数少ない子どもの心理治療施設で、明石市西部の緑豊かな自然の中にあります。
 児童精神医学、心理臨床、児童福祉、教育の各専門スタッフが連携し、悩みを抱え、行き詰まったり、追いつめられた子どもや親への総合的な援助を図っています。
 また、家族療法事業、外来相談事業の実施や、清水が丘学園児童心理臨床セミナー、夏には「公開講座」を開催するなど、地域支援事業も積極的に行っています。



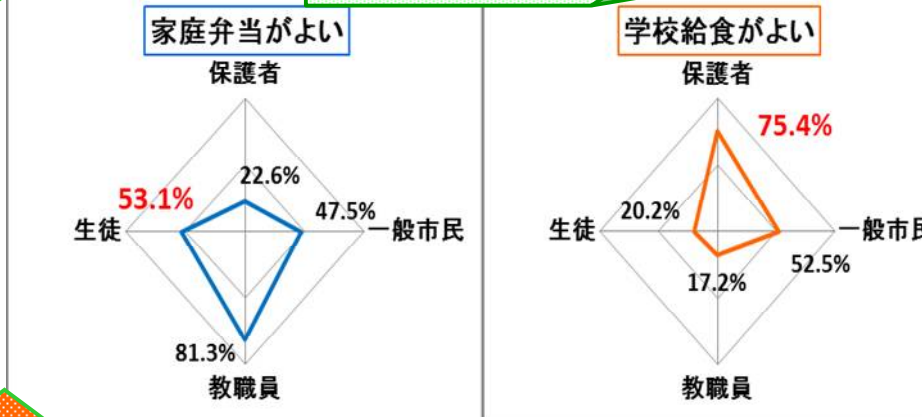
県立清水が丘学園

～中学生の昼食、食育について～

これまで中学校給食について質問すると、必ず「**愛情弁当**」でという回答でした。今は、働いている保護者も多く、スーパーには、忙しいお母さん向けにお弁当用の冷凍食品が並んでいて、それだけニーズがあるということだと思います。愛情弁当の中身も変わってきていて、仕事を持っているお母さんたちには負担は大きいです。コンビニのパンだけの子や昼食を持ってこない子どもも多いと聞きますが、食育の観点からどう考えますか？

市当局：アンケート結果では、パンやコンビニ弁当を購入した子どもは5.8%、体調等で昼食を食べなかった生徒は0.2%であり、理由なく昼食を食べなかった子どもはいないのではないかと。仮に、中学校給食が実施されれば、行政がその責任において文科省の栄養価基準を満たした昼食を提供することになる。食育の点では、やはり中学生自身が食品を選択する、あるいは問題を解決することができる力をつけられる実践的教育が大事、食の指導や食育を進めていく。

～アンケート結果～



アンケートは、平成23年7月上旬に実施され、一般市民については、1万人アンケートの中で行われました。学校給食の優れている点について、全員が「**栄養バランス・栄養価**」を1番にあげていますが、家庭弁当の優れている点には、「**親子の絆**」が上位に選ばれています。

～図書館の充実について～

H22年度の補正予算において、「**住民生活に光を注ぐ交付金**」事業があり、図書館事業に使われたと聞きます。この交付金は、住民生活にとって大事な分野でありながら、**光が十分に当てられてこなかった分野**に対する地方の取組を支援するために予算措置されたもので、**地方消費者行政、DV対策・自殺予防等の弱者対策・自立支援、知の地域づくり**の用途に限って事業が認められる交付金です。まず、予算の執行状況と今後についてお聞きます。



市当局：交付金5千万円を活用して、図書コーナー・子育て支援コーナー・ビジネス支援コーナーの整備拡充、また、大型の絵本架や雑誌架、新聞架などの整備を行い、児童書の充実を実施した。

再質問：コーナー整備などのハードにしか使えないのですか？学校図書室の専任司書さんの配備などにも使われるのかと期待していました。また、市民から、親子で利用するのは、垂水の図書館でなく、明石の図書館という話を聞いています。子育て支援の立場からも、良い絵本がたくさんある居場所としても意義があります。先ほどの内容は、本来、一般会計で行うべきこと。「**光をあてる**」交付金は、行政があまり目をつけないところにも光を当てるといった意味があったと思いますが？

市当局：司書の採用の可能性もあったが、交付金は単年度の事業のため、各図書館で充実できていなかった部分を優先した。明石のこども図書館は、低書架でゆったりしており、親子で利用されている。しかし、児童書についての蔵書数では、三宮図書館以外は同等以上蔵書しており、見せ方の問題と思う。神戸市の図書館でも、区の子育て支援センターなどと一緒に子育て支援的な発想で読書推進活動を行っている。